2015
issue

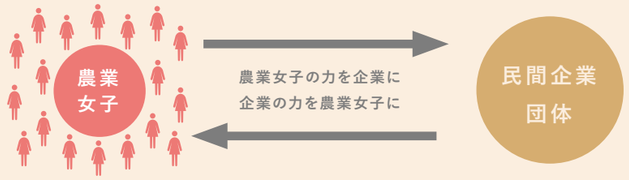
NOUGYOUJOSHI PROJECT BRAND BOOK

農業女子PJ

強く優しく未来を変えていく

農業女子プロジェクトとは

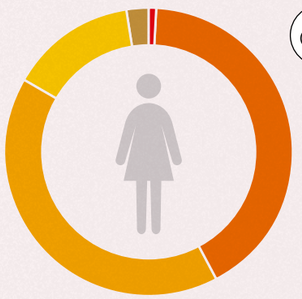
女性農業者が日々の生活や仕事、自然との関わりの中で培った知恵を様々な企業のノウハウ等と結びつけ、新たな商品やサービス・情報を社会に広く発信し、農業で活躍する女性の姿を多くの皆さまに知っていただくための取り組みです。2013 年 11 月に農林水産省が立ち上げ、現在では 350 名を超える農業女子プロジェクトメンバーと 21 社の民間企業が参加しています。



QUESTIONARY

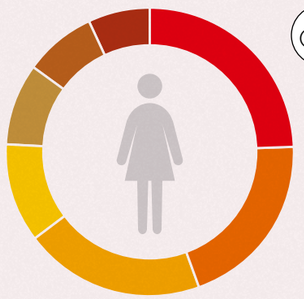
農業の魅力を届けたい〜農業女子の思い〜

農業女子プロジェクトメンバーが考えていることについて、アンケート結果をご紹介します。



Q1 就農した年齢は？

19歳以下	1%
20歳代	42%
30歳代	41%
40歳代	14%
50歳以上	2%



Q2 現在の就農形態は？

嫁として農業生産に従事	23%
夫婦で共同経営	21%
単独で代表者として経営	17%
跡取り娘として農業生産に従事	12%
農業法人に勤務	11%
親子で共同経営	8%
その他	8%

Q3 農業を通じて行っていきたいことは？

納得のいくものを作って多くの人に届けたい	78%
日本や地域を元気にしたい	65%
自分の可能性を広げたい	63%
女性のネットワークを広げたい	41%
社会の課題を解決していきたい	37%
世界に日本をアピールしたい	21%
その他	17%

Q4 プロジェクトを通じて、今後、重点的に取り組んでいきたいことは？

農業という仕事、農のあるライフスタイルの魅力を社会に広く伝え農業に関心をもってもらいたい	74%
企業との活動や他のメンバーとの交流を通じて農業経営力や生産技術の向上を図りたい	58%
食育や環境など、農業を活用して社会課題を解決したい	53%
女性農業者の仕事環境の改善につながるような取組をしたい	48%
その他	8%

Q5 農業の魅力を教えて下さい。

おいしいものを多くの人に届けることができる	64%
育てること、農業そのものが楽しい	64%
自然の中で仕事ができる	61%
家族や地域とつながりをもって仕事ができる	56%
自分のペースで仕事ができる	42%
食べるものに困らない	37%
育児と仕事を両立しやすい	26%
その他	21%

※2015年8月調査　※農業女子プロジェクトメンバー219名の回答（Q3〜Q5は複数回答）による

NOUGYOUJOSHI PROJECT BRAND BOOK

農業女子PJ

強く優しく未来を変えていく

農業女子プロジェクトとは P.01

参画企業とのコラボレーション P.02

密着！農業女子
私たちのいま・夢・チャレンジ

デザインで農業をハッピーに
松岡みずほ さん P.04

嫁だからこそ発見できる農業の魅力
山本早苗 さん P.06

リケジョから農業女子へ
吉川文 さん P.08

6 次産業化で魅力を発信
小高律子 さん P.10

旬と地域と伝統の大切さを若い世代へ
入倉眞佐子 さん P.12

MEMBER'S SNAP SHOT P.14

農業女子 SMILE MAP P.16

これまでのコラボレーション実績

農業女子プロジェクトが発足して約２年。すでに様々な農業女子×企業によるコラボレーションが実現しています。農業女子プロジェクトだからこそできた、斬新な企画が満載。最近の実績はこちらです。

女性が扱いやすい工夫が満載「農業女子トラクタ」を発表

井関農機

2014 年 11 月から農業女子との意見交換が行われ、2015 年６月に農業女子トラクタ「しろプチ」を発表！日よけができるサンバイザ付き、乗り降りしやすいグリップ＆ステップなど、女性でも扱いやすい工夫が満載です。

『趣味の園芸 やさいの時間』で「農業女子に聞く！」を連載中

NHK出版

NHKの番組『趣味の園芸 やさいの時間』のテキストで、野菜の育て方を基礎から紹介する月刊誌。発売中の10月号では、連載「農業女子に聞く！」にて、いちご農家の紹介と、いちご栽培の方法をレクチャーしています。

農業女子と連携して開発！「プラズマクラスター洗濯乾燥機」

シャープ

農作業での頑固な泥汚れを落とすドラム式洗濯機を目指し、農業女子との半年間にわたる意見交換を繰り返して製品化。2015 年7月 14 日に行われた新製品発表会には、開発に携わった農業女子メンバーも出席しました。

農業女子WEEK@丸の内タニタ食堂を開催

タニタ

農業女子の生産物を使った定食レシピを開発し、丸の内タニタ食堂にて一般のお客様に向けて提供。同時にマルシェやイベントも開催します。コラボレーション地域に分け、2015 年に３回開催していく予定です。

「ファミリー縁日 feat. 農業女子プロジェクト」で楽しく食育！

ナムコ

2015 年８月 25 日、ららぽーと横浜にて農業とエンターテインメントを組み合わせたイベントを開催。農業女子こだわりの新鮮野菜の提供や、金魚すくいのようにミニトマトをすくう「トマトすくい」などのゲームも行われました。

農業女子もらくらく草刈り！共同開発した「かる～の」

丸山製作所

全国の農業女子プロジェクトメンバー 11 名との意見交換を繰り返し誕生した草刈り機「かる～の」。3.9kgという軽量で、ピンク色のかわいいデザイン。女性でもらくらく草刈りができるということで好評を得ています。

農業女子の美味をお中元ギフトでお届け

三越伊勢丹ホールディングス

ジェラート、冷製スープなど農業女子が育てた食材を用いて、夏らしいオリジナルギフトを制作。三越日本橋本店のお中元ギフトセンターでは、ジェラートに使用された抹茶を生産した農業女子のセミナーも開催されました。

農業女子のはちみつを使ったおしゃれなスイーツを発売

ローソン

2015 年９月に発売された埼玉県産のはちみつを使ったスイーツ。はちみつプリン（関東甲信越 3443 店舗で発売）、ヴェリーヌ3種（埼玉県及び近隣店舗計 926 店舗で発売）の4種類の商品で、農業女子のはちみつが味わえます。

農業女子プロジェクト参画企業

全21社

農業女子プロジェクトでは、さまざまな企業と個別のプロジェクトを推進しています。トラクタ開発のような農業女子ならではのものから、ファッション、化粧品、エンターテインメントに至るまで。その活動にご注目ください！

- 井関農機株式会社
  - 夢ある ' 農業女子 ' 応援 Project
  - 農業女子トラクタプロジェクト
- 株式会社エイチ・アイ・エス
  - 農業体験＆交流ツアープロジェクト
- 株式会社NHK出版
  - あしたのファーマー養成プロジェクト
- 株式会社コーセー
  - 農業女子 Beauty Project
- 株式会社サカタのタネ
  - 農業女子発！「新野菜」の需要創造プロジェクト
- シャープ株式会社
  - ワンランク上の農業女子ライフを提供する家電プロジェクト
- 株式会社タニタ
  - 日本を健康に！一汁三菜の定食で元気を発信プロジェクト
- ダイハツ工業株式会社
  - 『もっと“私”の軽トラック』プロジェクト
- 株式会社東急ハンズ
  - 教えて！農業女子プロジェクトII
- 株式会社東邦
  - 汚れも悩みもスッキリ！農業をもっと楽しく！プロジェクト
- 株式会社東洋ハウジング
  - 農業女子と考える住まいのミライ・プロジェクト
- 株式会社東和コーポレーション
  - 手袋でサポート！快適農業ライフプロジェクト
- 株式会社ナムコ
  - 『農業×エンターテインメント』創出プロジェクト
- 日本サブウェイ株式会社
  - 「農業女子的 野菜が喜ぶメニュー開発」プロジェクト
- 株式会社パソナ農援隊
  - 未来の農業女子＆新たな農業の働き方提案プロジェクト
- 株式会社丸山製作所
  - 女性が求める“草刈作業”応援プロジェクト
- 株式会社三越伊勢丹ホールディングス
  - 想いを'伝えたい・学びたい・届けたい'プロジェクト
- 株式会社モンベル
  - フィールドウェア開発プロジェクト
- リーガロイヤルホテル東京
  - 農業女子的！おもてなしプロジェクト
- 株式会社レンタルのニッケン
  - 女子的トイレ開発プロジェクト
- 株式会社ローソン
  - おいしい＆生産者の顔が見えるムーブメント創出プロジェクト

※50音順で掲載しています。 2015年8月現在

密着！
農業女子

私たちのいま・夢・チャレンジ

全国の農業女子たちは、多くのこだわりや目標を持って、農業を行っています。そこで、今回は農業女子5名の活動に密着。どのような思いを持って取組んでいるのか、語っていただきました。

PROFILE

松岡みずほさん

奈良県天理市
まっちゃんのお花+veg

地元の生花店に就職し、休日は実家の農業を手伝う日々を送る。「二足のわらじ」に限界を感じた頃、奈良県に大きな農産物直売所が開設。販売の場が確保できたことにも背中を押され、2012年に跡を継ぐことを決意。

収穫した野菜をキラリと光らせる工夫

松岡さんの実家は、野菜と花苗を栽培しています。山裾に広がる畑には、白トマト、赤玉ねぎ、ブルーコーンなどカラフルな野菜がたくさん実っています。

「4反とあまり大きくない畑なので、普通の野菜を作っても、他の生産者さんに太刀打ちできませんから。お客様の目に少しでも止まるよう、珍しい野菜も積極的に栽培しているんです。頑固な父とはそれが原因でよく衝突しますが、チャレンジさせてくれる場を与えてもらって感謝しています」

高校卒業後、園芸専門学校でフラワーデザインを学んでいた松岡さん。その知識を生かして、珍しい野菜を栽培するほかにも、お客様の目に止まる工夫をしています。

「私の目標は、『デザインで農業をハッピーにすること』。収穫した野菜は、透明の袋やネットに入れて販売することが多いんですけど、我が家の野菜を見つけてもらうために、パッケージングや飾り方を工夫しています。たとえば唐辛子はクラフト紙で作った、フランスパンの袋に入れて販売したり。そのままキッチンに飾っても絵になるとお客様にも好評です。またパックに黄色のミニトマトを敷き詰め、その上に赤いミニトマトで目と鼻と口を作り、『スマイルトマト』として販売しています。農作業をしている時は、どういう包装にしたら楽しいかな？手にとっていただけるかな？と考えているのですが、その時間も楽しいんです」

農業はストレスフリー毎日が楽しくて仕方ない！

働きながら農作業の手伝いをしていた松岡さんですが、後継者として本格的に携わるようになったのは3年前。今は、農業に打ちこめる毎日が楽しくて仕方ないといいます。

「とにかくストレスフリーな毎日です。上司にお伺いを立てるわけでもなく、部下に配慮するわけでもなく、自分の判断で道を貫ける自由さにワクワクします。もちろん、自然を相手にしているので思い通りにいかないこともたくさんありますが、それも自己責任。とてもやりがいのある仕事だと思っています」

農業の魅力を日本全国の女性農業者と共有したい。その想いから農業女子プロジェクトに参加した松岡さん。

「農業にやりがいを感じている女性がたくさんいることを知り、とても勇気づけられています。みなさんの活躍に触れるたびに『自分も頑張らないとあかん！』と気合いが入り、より新しい品種にも積極的に挑戦するようになりましたね。今後の目標は、父の手を借りずに年間の作付けからすべて自分ひとりの手で育てること。そしてお客様も生産者も楽しく、ハッピーになれるような提案を続けていきたいと思っています」

お父さん、お母さんと3人で農業を行う松岡さん。春と秋に行われる奈良県のイベントのマルシェに参加することも。お花や多肉植物のほか、デザインを重視した野菜を販売。左は、フランスパンの袋に入れた唐辛子。

嫁だからこそ発見できる農業の魅力 地域を盛り上げ活性化させたい

PROFILE

山本早苗さん

岩手県盛岡市 山藤農園

友達に誘われた婚活イベントで、夫の藤幸さんと出会う。自動車メーカーのディーラーで営業職として働き、農業とは関係のない生活を送っていたが、2012年に結婚して農業女子に。現在は、藤幸さんと協力して農園を営む。

おいしさに感動！雁喰い豆のとりこに

山本さんが生まれ育ったのは、盛岡市の一般家庭。3年前まで、農業とは無縁の生活を送っていました。

「これまで農業にはまったく興味がなかったのですが、夫と出会って意識が変わりました。夫は、この地域で協力して、ずっと農業をしていくんだ、というしっかりとした覚悟を持っていて。その強い思いが素敵で、私も手伝いたいなと思うようになりました」

結婚して農業を始めてみると、腰痛が治ったり、肌がきれいになったりと驚きの健康効果が。そして、こんな大きな出会いもありました。

「こちらに嫁いでから、盛岡市玉山区の在来種である『雁喰い豆』を初めて食べたんです。『こんなにおいしいお豆があるんだ！』と感動しました。でも、種まきから収穫まで手作業で行うこと、あまりお金にならないことなどから栽培する人が減っていると聞いたんです。『幻の豆』なんて言われるようになっていて、このままじゃいけないと。何とかこの雁喰い豆を残したいと、夫にその思いを伝えました」

その思いが夫の藤幸さんに届き、雁喰い豆の栽培を行うことに。しかし、簡単な道のりではなかったと言います。

「うちの農園は、もともとお米、きゅうりなどを育てていて、雁喰い豆の栽培は初めての挑戦。栽培方法を教えてくれる方もいなかったので、地域の若い方と一緒に勉強会を開くことから始めました。畑に出向いて、どう手を加えるのがいいのか、草取りの仕方は？などみなさんと相談しながら、手探りで少しずつ進めていきました」

始めて2年ほどですが、今では豆の存在が広く知られるように。

「テレビや新聞で取り上げられたり、レストランのシェフが注目してメニュー開発をしてくれたり。だんだんと注目が集まって雁喰い豆の良さが再発見されるようになりました。すごく嬉しいですね」

直接販売で農園改革 もっと農業を知りたい

山本さんは、雁喰い豆の栽培以外にも、新たなチャレンジを続けています。

「これまで、作ったお米は農協出荷しかしていなかったのですが、私がきてから直接販売を始めました。私が農業を始めたと言うと、同級生や知り合いが『食べたい』『お米を売ってほしい』と言ってくれて。せっかく作ったおいしいお米を多くの人に届けたいと思い、パッケージも自分たちで作成。いろいろと工夫しながら販売しています」

女性らしい感性と持ち前の行動力で次々と農園を改革する山本さん。農業女子プロジェクトに参加したのも、もっと農業を知りたいという思いからでした。

「農家の奥さん同士が知り合う機会があまりないので、全国でいろいろな思いを持って農業をしている方と出会えるかなと思い、参加しました。メンバーになって1年が経ちますが、多くの方が『今こんなものを作ってるよ』と情報をくれるので、とても勉強になっています。今後は、農業から地域貢献ができたらいいなと思い、『地域活性プロジェクト』を立ち上げました。様々な産業の方と協力し、そして、農業女子のみなさんにも刺激を受けながら、もっと地域と農業を盛り上げていきたいです」

2015年8月に横浜で開催されたナムコとの共同イベント「ファミリー縁日 feat. 農業女子プロジェクト」では企画と農作物提供として参加。左は、雁喰い豆のおすすめレシピ。スタンダードな煮豆はもちろん、クリームチーズにのせてカナッペ風に食べると抜群においしいのだそう！

リケジョから農業女子に
土壌分析でおいしい野菜作り

PROFILE

吉川 文さん

三重県鈴鹿市
すいーとぽたけ

結婚を機に環境分析会社を退職。祖父母が農家で自由に使える土地があったこと、子供達に「安心・安全な美味しい野菜を食べさせたい」という想いから就農。2011年自身の農園「すいーとぽたけ」を立ち上げる。

理系の知識を農業にフル活用！

結婚を機に環境分析会社を退職し、白衣をつなぎに、試験管を鍬に持ち替えた吉川さん。自家製の風力発電装置を作り「エコな農業」を実践しています。

「父親が、設計と灌水のアイディアを出してくれて設置しました。水を撒く際のポンプに使用したりと、農園の電力のほとんどを賄っています。前職の知識を生かして、土壌分析にも積極的に取り組んでいるんですよ」

吉川さんが栽培する野菜は、キャベツやジャガイモから、希少な西洋野菜まで多岐に渡ります。客観的なデータを用いて育てた野菜は、どれも品質が高いと評判です。

「土の中の養分とPH（水素イオン濃度）などを自分なりに分析した後、専門機関に依頼して詳細なデータを取り寄せます。その検査結果を見て、野菜ごとに肥料の配分を考えていきます。今回調べたところには、これから大根を植えようと思っているので、もう少し肥料を入れようかなと自分なりに当たりをつけました。長い期間おいしい野菜を収穫するためにはこういったデータも参考にした方がいいと思うし、そのためには知識も必要なので専門書も読み漁ります」

読む本は栽培関連の本も含めると、年間200冊ほどと勉強熱心な吉川さん。

「土に触れるだけではなく、こうした勉強の時間も楽しいですね。理系の知識があると、植物生理学や土壌分析の本などを読んでも、すんなり頭に入ってくるので、これまでの経験が役に立っているのかなと思います。台風と大雨で畑が1年に3回流されたり、野菜が病気してしまったりと大変なこともありますが、農業の世界にはまだまだ科学的に未知の分野がたくさん。とてもクリエイティブだし、未来ある産業だと感じます。これからどんな発展をしていくのか、考えるだけでワクワクします！」

草刈り機につなぎ、新野菜。商品開発にワクワク

企業とのコラボレーションも〝ワクワクすること〟のひとつ。今まで携わったのは丸山製作所、モンベル、サカタのタネなどです。どれも農業女子プロジェクトからの募集に応募したのがきっかけとなりました。

「企業とつながる場が持てたのは、自分にとって大きな財産だなと思います。三重の小さな農園にいたら出会えるはずもない方々ですから。草刈り機なども、私たち女性農業者の意見をたくさん取り入れていただいて、大満足の仕上がり！本当に貴重な体験をさせていただいているなと思います」

続けて吉川さんは、農業女子プロジェクトに参加して世界がぐんと広がったと話します。

「イベントを通じて、北海道から九州までたくさんの女性農業者の友達ができました。日々フェイスブックで、栽培している野菜のことから、害虫の駆除の仕方まで幅広く意見交換しています。農園の経営者ならではの辛さを分かちあうこともできて、とても心強いです。年齢や住んでいる場所に関係なく、たくさんの人と〝野菜〟を介してつながれたことが本当に嬉しい。農業女子プロジェクトに参加することができて、ますます農業が楽しくなりました！」

農業女子プロジェクトでモニターをしているモンベルのつなぎと、開発に携わった丸山製作所の草刈り機。草刈り機は軽量で、ハンドルが体の近くでホールドできる設計なので動かしやすいそう。左は、吉川さんが力を入れる土壌分析の様子。

トピナンブールとの感動的な出会い
6次産業化でその魅力を広く発信

PROFILE

小高律子さん

神奈川県大和市
トピナンブール

専業主婦時代「菊芋」に出会い、その健康効果と美味しさに衝撃を受ける。保存が効かないという理由で、店頭にはあまり流通しない「菊芋」を多くの人に食べてもらいたいと、2011年自身で栽培することをスタート。

高品質の商品目指し 試行錯誤のくり返し

小高さんは、長野県阿智村の農園と協力し、菊芋の6次化を進めています。農薬・化学肥料を使わずに丁寧に作られた菊芋のおいしさに、感動する人も多いそうです。

「菊芋はおいしいだけではなく、腸内環境を整えたり、体調がよくなるなど健康効果も抜群。うちの子どもたちも『菊芋を食べるとお通じがすごい』と言うほどです（笑）。ただ収穫してからの傷みが早く、保存があまり効かないため、市場に流通していないという問題点を抱えています。この素晴らしい菊芋をひとりでも多くの人に知ってもらうにはどうしたらいいか？　考えた末に生芋の通信販売やレストランシェフへの営業活動と平行して、加工品の開発と販売、つまり6次産業化も行うことにしたのです」

現在小高さんの農園で取り扱っている加工品は、菊芋パウダー、菊芋茶、タブレット。商品化するまでの道のりは、実に険しいものでした。

「最初は、ただ菊芋をスライスして乾燥させたものを作ったのですが、販売の途中で粉々になってしまって。商品としての見栄えもよくないし、食べにくさもあり、改良が必要でした。阿智村の方に相談したら、焙煎したお茶なら作れるということになり、私なりに考えて『若返りのお茶』と名づけて販売。名前のインパクトがあったようで、多少の反響はありましたが、そこまで売れ行きは伸びませんでした」

また、工場での生産過程でも、さまざまな課題がありました。

「菊芋の主成分であるイヌリンは、べたっとするという特徴があります。そのために扱いにくく、機械の故障につながることも多いので、工場に断られることも多かったですね。生産してくれる工場が見つかった後も、水分の抜き具合を調整するのが難しくパサパサしすぎてしまう。試行錯誤をくり返し、今では品質の高い商品をつくることができたと思っています」

呼び名を変えたら 女性の間でヒット！

加工品として扱いやすくなった菊芋ですが、発売当初はまったく売れず。販売経路を模索していた時に知ったのが、農業女子プロジェクトでした。

「農業女子プロジェクトが連携するイベントで、女性フレンチシェフが収穫した野菜を使ってランチを作るという企画があったんです。その時に菊芋を栽培しているとお話ししたら『フランス語では、〝トピナンブール〟と言うんですよ！』と教えていただいて。『こんなにおしゃれな名前だったの！』と衝撃を受けました（笑）。そこで商品の名称を『トピナンブールティ』と変えて発売。イベントなどでも名前を変えてPRしたところ、新しいモノに敏感な女性の間でヒットしたんです」

戦略通り、今では多くの人に認知されるようになったトピナンブール。小高さんはこれからも様々な事業展開を行っていきたいと話します。

「レストランや加工業者さんなどの力を借りて、トピナンブールを使ったスイーツや料理を提案していきたいですね。私の夢はフランスから来たトピナンブールを、日本でもっともっとメジャーなお野菜にすること。そしてゆくゆくはフランスに『日本ではこんな食べ方をしていますよ！』と、逆発信していけたらと思っています」

農業女子プロジェクトで、女性の手にフィットして、作業がしやすい手袋を、東和コーポレーションと共同開発中。左は、菊芋の加工工場で、ここで商品が誕生。

旬と地域に根差した農法を大切に
野菜作りの楽しさを若い世代へ

PROFILE

入倉眞佐子さん

徳島県阿波市
小野農園

東京農業大学を卒業し、有機農業に関心を持つが、就農の機会がないまま広島県で就職。21年間勤務するも、農業への思いを捨てきれず、大学の同級生の誘いもあり、2012年に有機農業をスタート。

二期作で米と麦を栽培 〝自給自足〟を目指す

入倉さんの小野農園では、米、麦、大豆の他、約60品目の多品種の野菜を年間通して作っています。目指すは〝自給自足〟できる農家です。

「うちでは、販売しやすい農作物だけを作り続けるということはしていません。季節に合わせて旬な野菜を育て、それを食べて生きる。昔ながらの〝百姓〟の生活を目指しています。今は二期作で米と麦を作っているのですが、このような昔ながらの農法を実践しながら、その大切さを伝えていきたいと思っています」

意を決して就農してから3年。農業の大変さ、自然の厳しさを痛感する日々で、壁にぶつかることも多いと言います。

「約20年間、社会人としての経験は積んでいたので、農業でもある程度はできると思っていたんです。でも、その自信はすぐに打ち砕かれました（笑）。化学肥料を使わない有機農業は、判断を間違えるときちんと育たないこともあるし、自然環境にも大きく左右されます。とにかく現場に行って勉強しようと、来る日も来る日も畑に立つようにしました。すると、周りの農家の方たちが見ていて、アドバイスをくれたり、農機具を貸してくれたりするようになって。そんなサポートもあってか、3年でどうにか農園を軌道に乗せることができました」

現在は、思う存分農業に打ち込むことができる環境が整い、やりがいを感じているそうです。

「努力すれば結果がついてくるのが、農業のおもしろさ。米にせよ、麦にせよ、1年に1回しか作ることができないので、あまり経験が積めないのですが、その1回の機会を大切に栽培しています。頑張って作った大豆や野菜を、マルシェなどで多くの方に食べてもらえるのは本当に嬉しいことです。『おいしい』と言って食べてくれる人の顔を見ると、もっといい野菜を作ろう、と気が引き締まりますね」

子供と一緒に大豆作り 農業への関心を育てたい

農作物の生産とともに、農業を広める活動にも力を入れる入倉さん。セミナーやワークショップなどを積極的に行っています。

「大豆の種まきから管理、収穫、最後に味噌作りまでを行う〝百姓塾〟を主宰しています。また、〝キッズファーマープロジェクト〟を運営するボランティア団体と協力して、2年前から子どもたちとも一緒に大豆を作っています。種まきから一貫して行うことで、味噌や豆腐が大豆からできていることを知り、栽培の厳しさを体感できる。子どもたちが楽しく作業したり、農業に関心を持ってくれるのが嬉しいですね」

農業女子プロジェクトには2014年の10月から参加。メンバーとしての活動から、新たなアイデアが生まれることもあるそうです。

「農業の世界はまだまだ男社会。女性の仲間が欲しいと思い、見つけたのが農業女子プロジェクトでした。全国の女子の方と知り合うことができて、今では情報交換をする機会も多くなりました。徳島県でもメンバーが増えているので、今後は、県内の農業女子だけでイベントやシンポジウムができるぐらいになるといいなと思っています。そのためにも、若い世代に農業の大切さ、おもしろさをもっともっと伝えていきたいです」

農業女子プロジェクトのメンバーとして取材を受け、NHK出版『やさいの時間』に掲載。中央左は、入倉さんの育てた野菜と、徳島県阿波市の農家が共同で産地化しようとしている白ナスの「美〜ナス」。

MEMBER'S SNAP SHOT

農業女子への質問

①私の生産物　②農業のここが楽しい！　③プロジェクトへの関わりやこれからの期待　④プロジェクトに参加してよかったこと　⑤農業で叶えたい夢

6次産業化で女子力発揮

自家農園の果物を使い、ジャムやドライフルーツを作っています。

竹内和恵 さん
竹内果樹園

①プルーン、ぶどうなど ②お客様から「ここにしかない味だよね」と感動してもらえる ③最近加入したので、今後マルシェ出店などしていきたいです ④農業の様々な形を知り、自分たちの農業を追求して行きたいと思った ⑤地域を豊かにできる果樹園になる！

牛３頭から酪農をスタート。夢が形になり幸せです！

松島薫 さん
有限会社 松島農園
チーズ工房 Three Brown

①牛乳、ナチュラルチーズ ②おいしいチーズを作るための牛乳作りを考えて実践すること ③入ったばかりですが、これからマルシェ出店や企業との企画に参加していきたい ④多方面で人とのつながりができた ⑤おいしい牛乳でチーズを作り、地域に愛される工房に！

農作物を無駄にせず、加工品にできないか考えるのはおもしろい！

市原奈穂子 さん
株式会社パストラル
あいがもん倶楽部事業部

①合鴨米、自然栽培米、米ぬかの焼き菓子、栗、ワイン用ぶどうなど ②成長する植物の生命力を感じられること ③タニタ食堂のマルシェ、KOSE 化粧品のモニター ④地方にいても農業関連のイベントに参加できる ⑤「農業をやりたい」という人を増やしていきたい

農業女子のパワーで地域に貢献

若手農業女子の交流会を開催して、情報交換をしています。

藏光綾子 さん
藏光農園

①温州みかん、南高梅、甘夏など ②研究、製造、販売のすべてを自分たちでできるところ ③シャープの洗濯機開発など ④全国の農業経営に関わる女性に出会えたこと ⑤多くの人に農業をすることの等身大を知ってもらい、その上で田舎で農業する人を増やしたい

マルシェの企画・運営。地元の食材を、手に取れる場所を作りたい。

堀田悠希 さん
夢想農園

①白かぶ、長芋、パクチー、アーティチョークなど ②やる気と思いつきで可能性を広げられるところ ③札幌東急ハンズでのマルシェに参加 ④日本全国の情報が入ってくること ⑤女性農業者が当たり前のように自分のキャリアを農業に活かせる時代にすること！

若手農業者を育成。楽しいと言われると嬉しく思います。

髙山真里子 さん
マリズファーム

①ハーブ、西洋野菜、伝統野菜など ②自分で仕事をコントロールできる。たくさんの人との関わり ③東北地方でのプロジェクト活動を盛り上げていきたいです ④いろいろな考えや活動を知ることができる ⑤農業はすごく楽しいので、その楽しさを広めたい

企業とのコラボ・ネットワークを拡大

コラボすることにより、より強いつながりや存在ができます。

堤智春 さん
まる万製茶

①かぶせ茶、かぶせ茶を使ったお茶菓子 ②大切に育てた作物が立派な商品になり、お客様が喜んでくれること ③丸の内タニタ食堂でのトークイベントに参加 ④違う作物や、県外の農業者と会って刺激をもらえること ⑤かぶせ茶の旨みや楽しみ方を広めたい！

農業と音楽を結び活動。他にも多くの機関と協力し広がりは無限大！

遠藤幸枝 さん
遠藤農場

①馬鈴薯、甜菜、秋蒔き小麦 ②自然に囲まれながらエクササイズ農作業できる！ ③公式 FB 連載コーナー「お国自慢」記事投稿への協力 ④農業女子の熱い活動がわかる ⑤地域おこしや担い手不足の対策、恵まれない子どもたちのサポートを農業に通してしたい

地域の農家と「循環型農業」に取り組んでいます。

西山美貴 さん
農業生産法人
有限会社梶岡牧場

①玉ねぎ、さつまいも、じゃがいもなど ②教育ファームで子どもたちと一緒に活動できること ③東邦の「洗剤」開発プロジェクト ④各方面の農業女子との交流が持てる ⑤地域の子どもたちと農業に取り組み、環境や安心安全を考えながら「医食同源」を伝えたい

MEMBER'S SNAP SHOT

多彩な農業女子の　REAL VOICE！　ご紹介します。

「農家の娘」として農業を守る！

農業が生活の一部だったことは私の財産。楽しく農業を継承したい！

永井千春 さん
Vege TanaQ

①へきなん美人 ®、へきなんサラダたまねぎなど ②野菜の一生を見られること ③他の農業女子メンバーと交流を深めたい ④全国の農業女子と情報交換ができる ⑤特産物生産に携わりながら「へきなんのシニア野菜ソムリエ」としてへきなん野菜の伝道師になること！

園の木々とともに、私自身も１年ごとに成長しています。

石岡紫織 さん
石岡りんご園

①りんご。りんごジュース ②自分のライフスタイルに合わせて仕事ができる ③タニタ製品のモニター参加 ④普段は関わることのない企業を知り、農業マーケットの活気を感じる ⑤りんごの栽培品種 100 種類。うちで収穫できないりんごはない！と言いたい

女性が農家を継ぐことはできる！認められるよう努力の日々です。

前川すずみ さん
前川農園
farm front river

①米、野菜、山菜など ②手をかけた農作物が実り、食し、四季を体感できて感動！ ③コーセー商品 WEB サイトに登場。女性にとって農業が楽しくなるような製品開発に関わりたい ④全国に仲間がいて心強い！ ⑤農業が子どもたちの憧れの職業になること

結婚して農業女子に

夫と仲良く作業することが成功に繋がると思うので、頑張ります!

大吉枝美 さん
大吉農園

①キャベツ、プチヴェール、ロマネスコなど ②愛情いっぱいに育てた野菜がおいしいと評価してもらえること ③九州（鹿児島）をもっと盛り上げるような活動を目指したい ④たくさんのアイデア提案の機会があること ⑤商品提案と、高品質の野菜を海外輸出！

新鮮で瑞々しい野菜や果物を食べられるのは、農家ならではの贅沢です。

山下希 さん
株式会社 山雅FABRICANT

①ピオーネ、シャインマスカットなどのぶどう ②手をかければ応えてくれるところ ③おかやま農業女子の活動としてマルシェに参加 ④同じ志を持つ女性農業者に出会えたこと ⑤子どもたちに就職先のひとつとして農業が選ばれるような環境づくりをしたい！

お嫁にきて後継者不足を痛感。楽しく農業する姿を見てほしい！

濱田友紀 さん
農業組合法人
アグリスターオナガ

①米、小松菜、水菜などの野菜 ②時間を自由に使える。四季を感じながらの農作業 ③地元企業との取り組みに加え、プロジェクト企業との共同企画にも参加したい ④全国にたくさんの同志がいて嬉しい ⑤自分の作った農作物を使った「農家居酒屋」をしたい！

異業種から農業女子に転身

農業を始めて知識のなさを痛感…。失敗しながら日々学んでいます。

住珠紀 さん
すみ農園

①トマト、キャベツ、たまねぎ、里芋、かぼちゃ、もち米など ②植物を育てること。毎日の生育や変化を見るのが楽しみ！作った生産物が評価されるのも嬉しいです ③サカタのタネのプロジェクト ④全国の女性農業者と知り合うことができたこと ⑤生涯現役 !!

トマトジュースで元気になった！という言葉が励みになります。

曽我千秋 さん
株式会社 曽我農園

①トマト、トマトジュース、トマトケチャップなど ②お客様の「おいしかったよ」の声が嬉しい ③ KOSE 化粧品モニター、モンベルのフィールドウエアプロジェクト ④全国の仲間と情報交換できる ⑤農福連携で障害者の雇用を今後も継続し、一緒に居場所作りをしていきたい

農業経営モデルを作り、新規就農者を増やしていきたいです。

野口樹里 さん
株式会社 mama

①米、野菜 41 種類、農家民宿など ②自然の脅威も豊かさも体感でき、全力で自然と生きている実感があること ③企業各社のアンケートへの協力 ④全国の農業女子の活動を知り励みになる ⑤日本の水を守るため、経済的に成り立つ山の農業経営モデルを作りたい

農業女子 SMILE MAP

全国 47 都道府県で活躍する「農業女子プロジェクト」のメンバー。
彼女たちの笑顔と行動力が、日本の農業の未来を創り出します！

近畿エリア

北陸エリア

北海道・東北エリア

中国・四国エリア

関東エリア

九州・沖縄エリア

東海エリア

JAPAN ● NATIONWIDE AREA MEMBERS

※ 2015年9月時点で写真を提供していただいたメンバーで掲載しております。

全メンバーのプロフィールは　http://nougyoujoshi.jp

SYMPOSIUM

シンポジウム

農業女子力で変わる・変える！ 日本の農業

入場無料

全国で活躍する「農業女子プロジェクト」メンバーとともに、
日本の農業を守り発展させるための課題や、そこで発揮されるべき
女子力の可能性などについてディスカッションします。
私たちすべての人間の食を支える農業。
日々、真剣に農業と向き合う農業女子たちと一緒に、
農業の未来を考えてみませんか？

〔テーマ〕

theme 1 ○○ 農業女子誕生！ ～「農業」の世界に飛び込んだ女性たち～

theme 2 ○○ 女子力発揮で6次産業化！ ～自分らしい「農業」を目指して～

theme 3 ○○ つながる農業女子力！ ～「農業」を起点にコラボ&ネットワーク～

〔パネリスト〕（予定）

「農業女子プロジェクト」メンバー
東京大学大学院農学生命科学研究科 中嶋康博教授　ほか

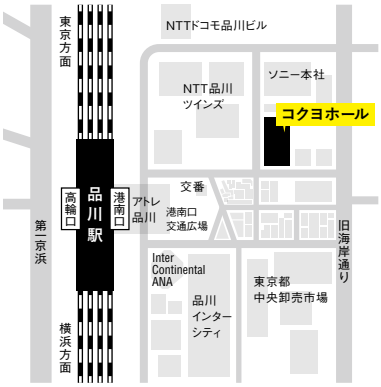
中嶋教授

小高律子さん
トピナンプール

近藤由佳さん
ペコロス農園

山本早苗さん
山藤農園

※内容、登壇者は変更になる可能性があります。シンポジウムの最新情報や詳細は
"農業女子プロジェクト公式HP〈 http://nougyoujoshi.jp 〉" をご確認ください。



2016年2月27日（SAT）開催

● 会場　コクヨホール（東京都港区港南1-8-35）　● 時間　15:00（開場14:45）～17:00　● 参加費　無料

農業女子プロジェクトブランドブック
平成27年10月13日 発行

企画・制作・発行 株式会社サジェスコム
© 2015 農林水産省 農業女子プロジェクト事務局

※このブランドブックは、平成27年度農林水産省「輝く女性農業経営者育成事業」により制作しました。
※本書掲載内容の無断転用を禁じます。本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。